

# Europeanaの現在地： 成り立ちと3つの変化

筑波大学図書館情報メディア系

西川 開 (ニシカワ カイ)

[knishikawa@slis.tsukuba.ac.jp](mailto:knishikawa@slis.tsukuba.ac.jp)

# 内容

1. Europeanaとは
2. 3つの変化：ビジネスモデル・ガバナンス・政策
3. Europeanaの現在地

Europeanaとは

# Discover Europe's digital cultural heritage

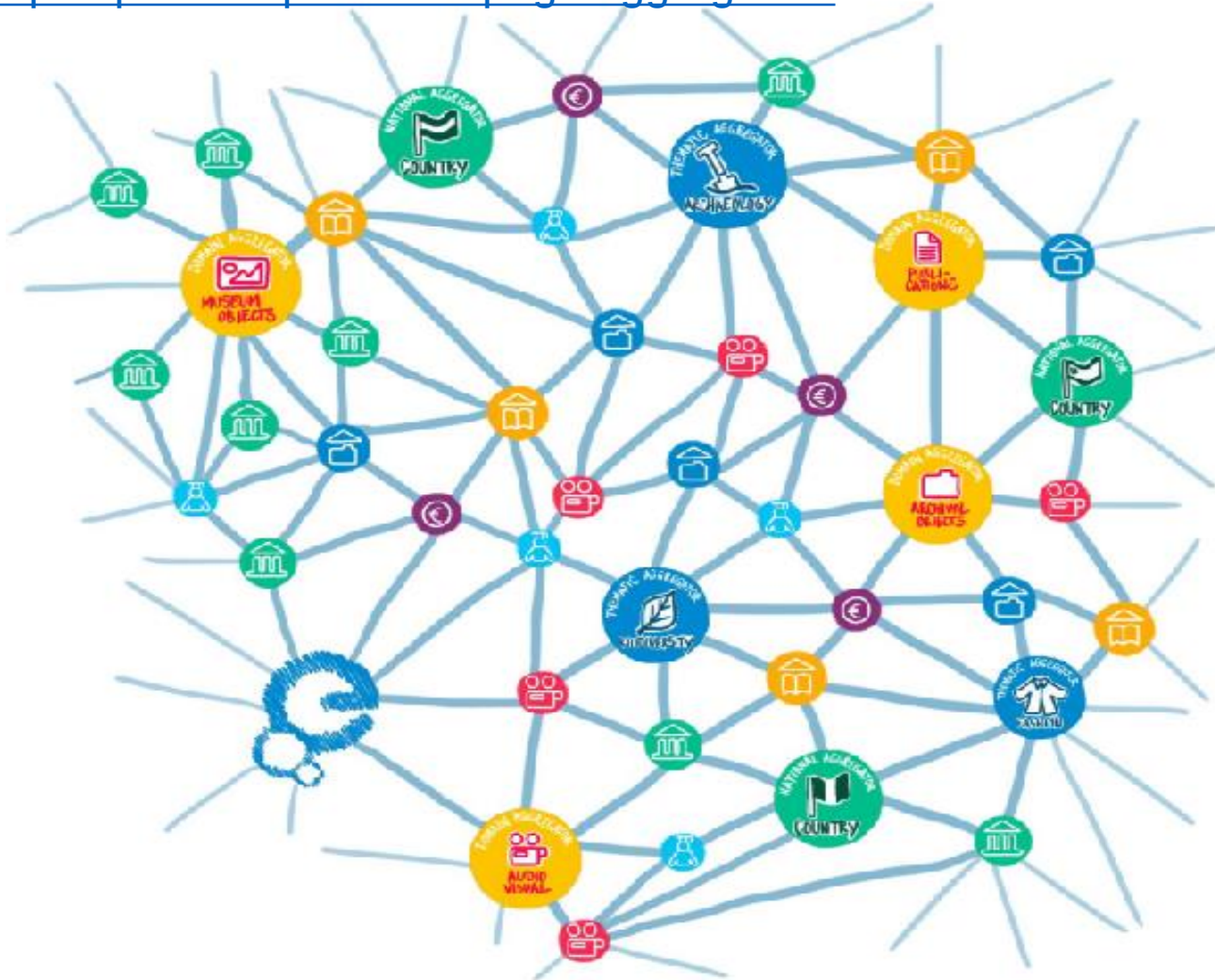
Search, save and share art, books, films and music  
from thousands of cultural institutions

 Search 60+ million items

- 欧州のデジタル化文化遺産のためのプラットフォームであり、ジャパンサーチのモデル
- 欧州+関連国の2,000超の文化機関から、6,000万件超のコンテンツを収集（現在）
  - うち56.6%が再利用可能、25.7%が条件付きで再利用可能

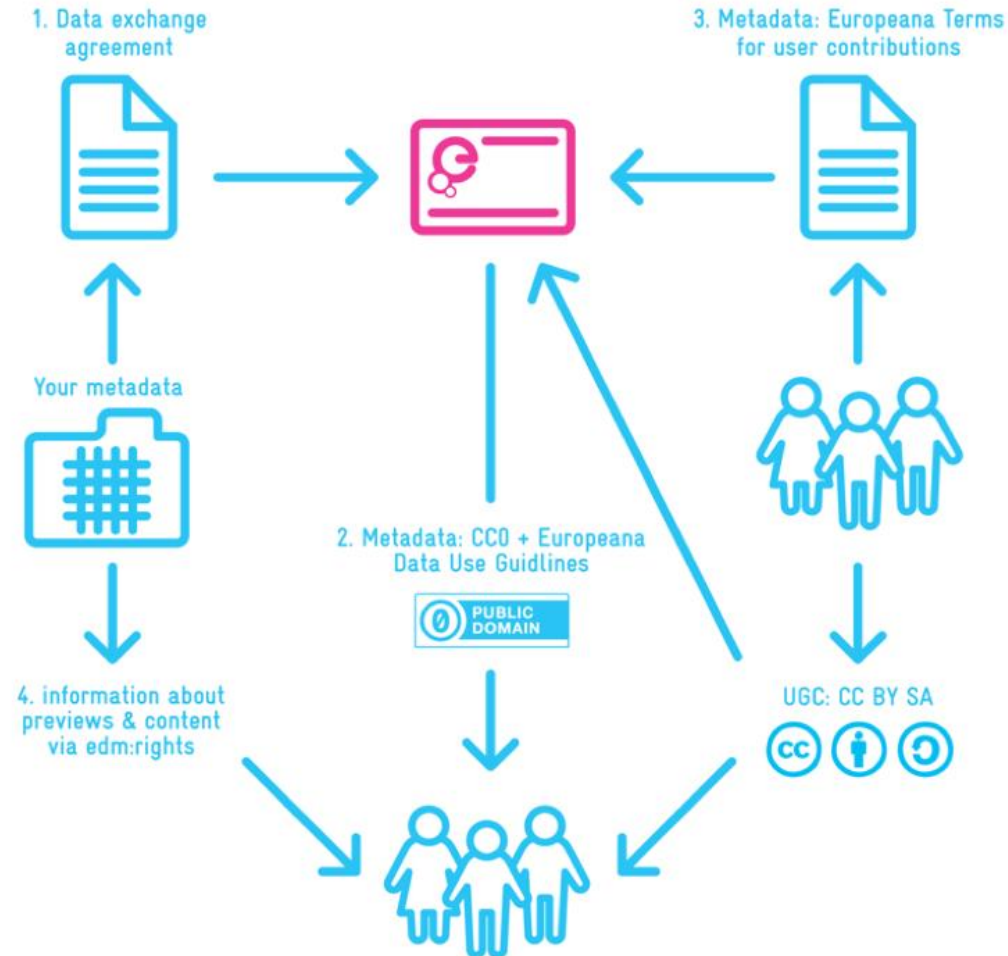
# アグリゲータモデル

- Domain & Thematic
- National & Regional
  - <https://pro.europeana.eu/page/aggregators>



# Europeana Licensing Framework

- <https://pro.europeana.eu/page/europeana-licensing-framework>



# 略史

- 2003~, Googleとの闘い
  - Google Print, 『Googleとの闘い』
- 2008, Europeana β版公開
  - 欧州産検索エンジン → 欧州単一の電子図書館 → Europeana
- 2011, Europeana v1.0公開
  - EC→加盟国に対して、文化遺産のデジタル化の促進と、Europeanaを介したアクセス/再利用を可能にすることを求める
- 2021, 文化遺産分野の欧州共通データスペースへ

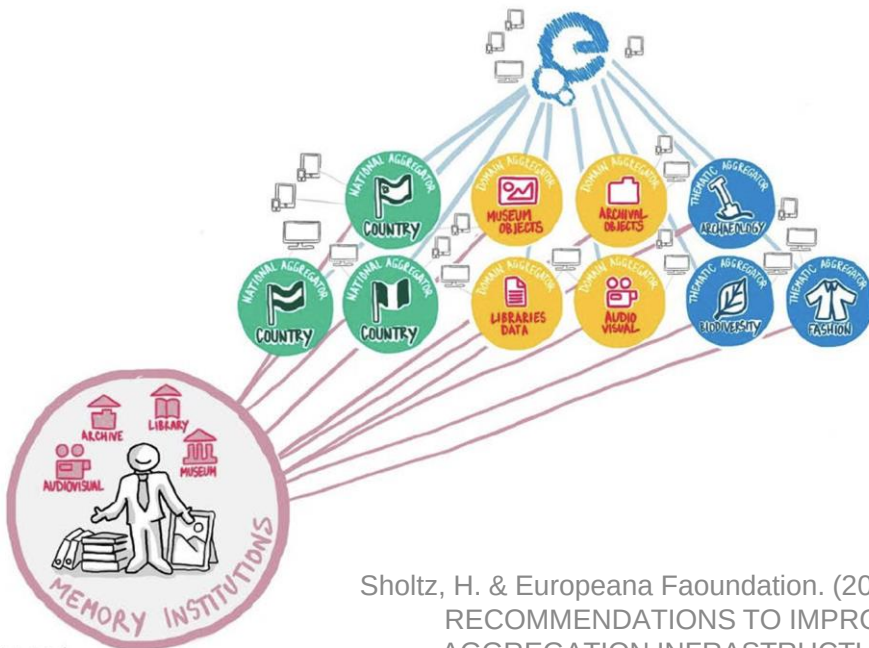
3つの変化：

ビジネスモデル・ガバナンス・政策

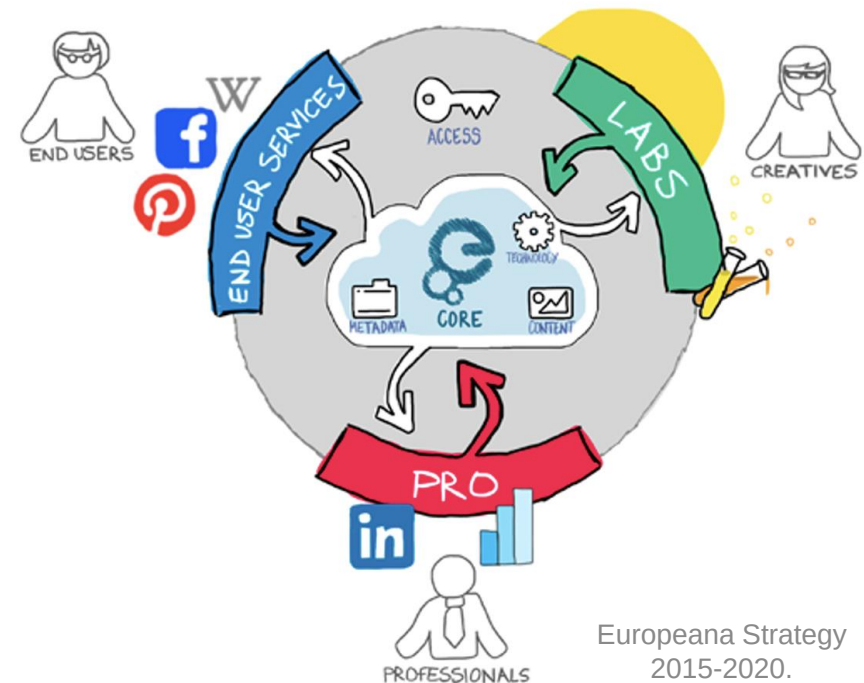


# ビジネスモデルの変化： ポータルからプラットフォームへ

- 2011-2015
  - 欧州文化遺産の横断検索を可能とする「ポータル」 (エンドユーザー向け)
- 2015 ~
  - 異なるユーザー層を引き合わせる「プラットフォーム」への転換



Sholtz, H. & Europeana Foundation. (2015). D1.1: RECOMMENDATIONS TO IMPROVE AGGREGATION INFRASTRUCTURE.

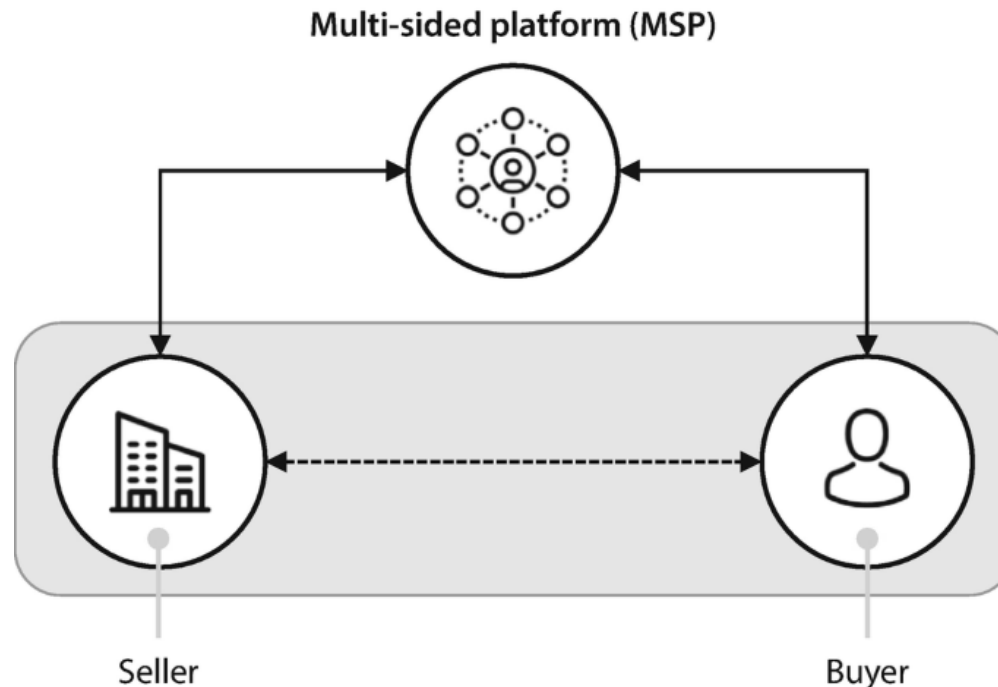


Europeana Strategy 2015-2020.

# プラットフォームとは

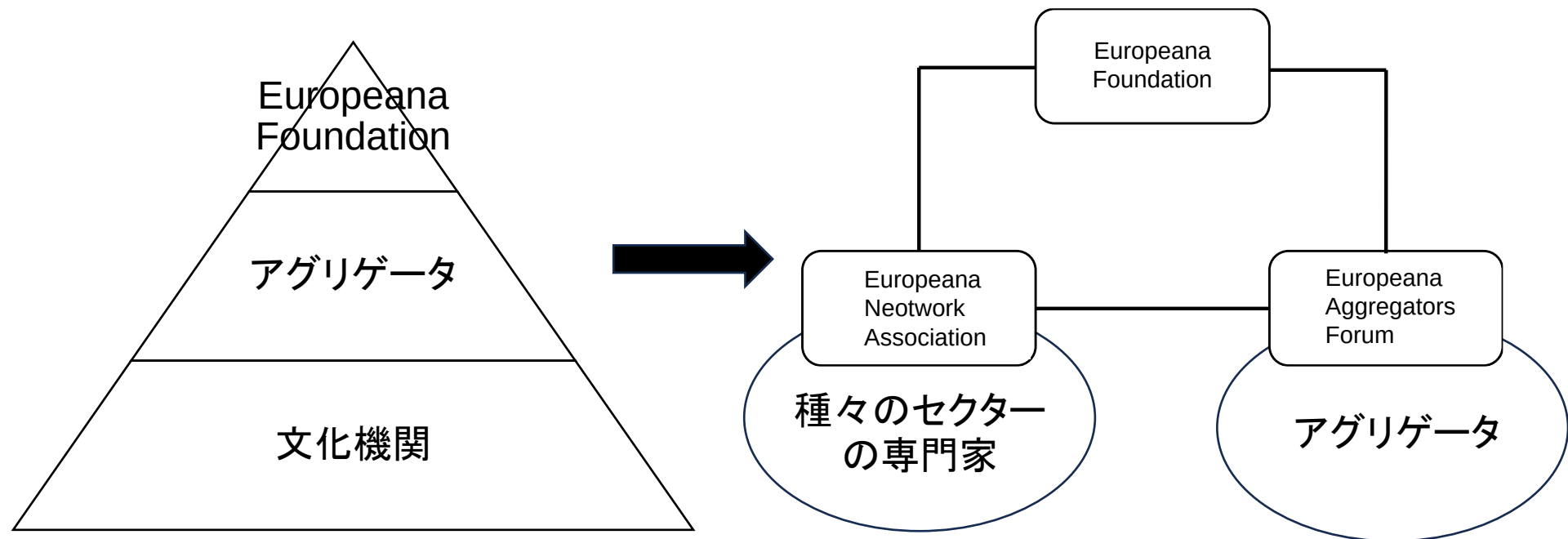
- Multi-sided platform

- 複数の異なる属性のユーザー層の相互作用を仲介する組織、及びその組織が提供する（デジタル）インフラ
- e.g. SNS, Amazon, App store, etc.



# ガバナンスの変化： 集権型から分権型へ

- ポータル期
  - 唯一の意思決定機関としてのEuropeana Foundation
- プラットフォーム期（2015~現在）
  - 3組織によるガバナンス体制の確立、メンバーシップルールの策定



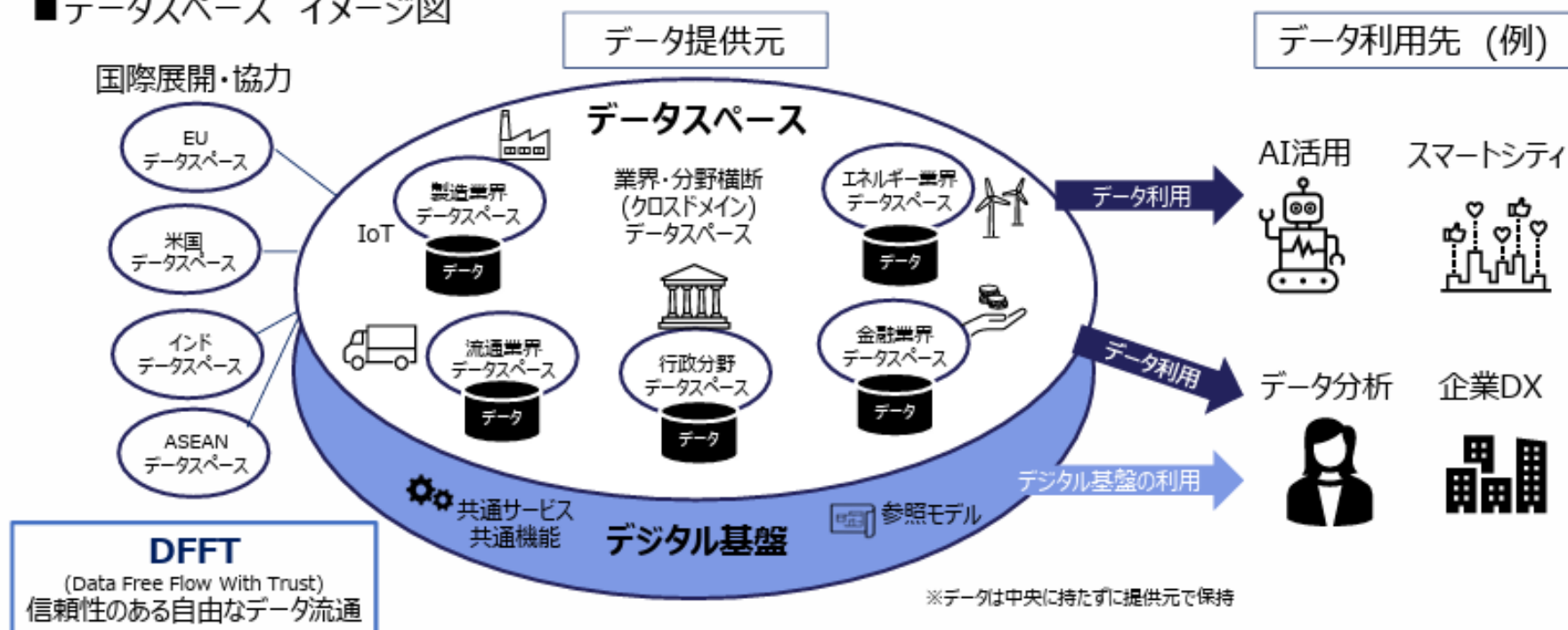
# 政策的位置付けの変化

- 2011, *Recommendation on online accessibility of cultural material and digital preservation*
  - 加盟国に対して、文化遺産のデジタル化の促進と、Europeanaを介したアクセス/再利用を可能にすることを求める
- 2021, *Recommendation on a common European data space for cultural heritage*
  - Europeanaを文化遺産分野の欧州共通データスペースと位置付ける
  - 文化遺産の3Dデジタル化の促進
  - 公的助成による文化遺産デジタル化プロジェクトの成果物をEuropeanaで利用可能とすることを助成の要件とすること
  - 上記成果物のFAIR原則への対応

# データスペースとは

- 組織・国・業種を横断してデータを共有できる標準化された仕組み

## ■データスペース イメージ図



IPA（独立行政法人情報処理推進機構）. (n.d.). データスペース入門.  
<https://www.ipa.go.jp/digital/data/jod03a000000a82y-att/dataspaces-gb.pdf>

# 共通欧州データスペース（common European data space）とは

- 目的

- 「欧州データ戦略」より、欧州のグローバルな競争力とデータ主権を確保する、データの単一市場の創出

- 概要

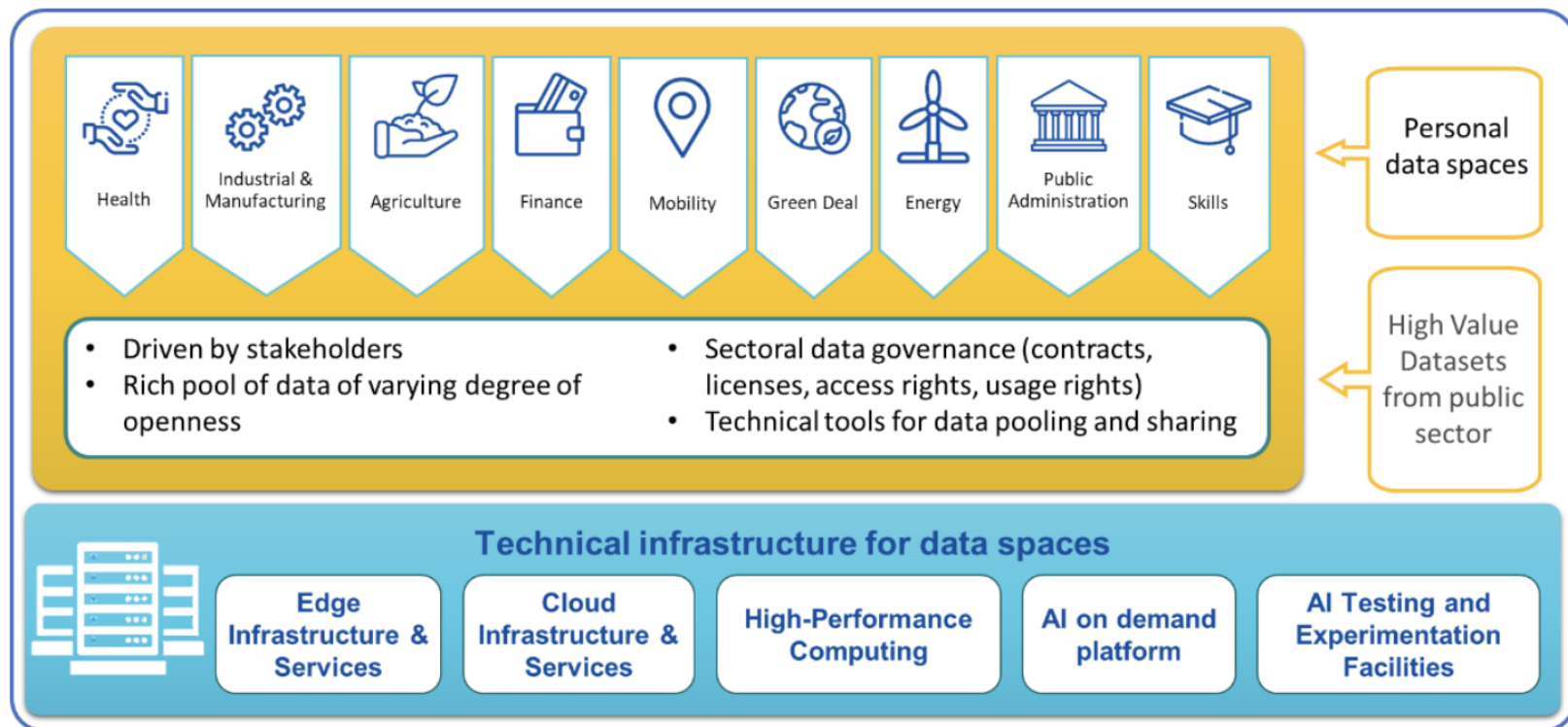
- 「データのプール、アクセス、共有を促進する共通のデータインフラとガバナンスの枠組み」から成る

- 特徴

- すべての組織と個人の参加が可能である
- データをプールし、アクセスし、共有し、処理し、利用するための、安全でプライバシーを保護するインフラを持っている
- データにアクセスし、利用するための明確で実用的な仕組みであること
- EU の規則と価値観、特に個人データと消費者保護、競争法を尊重する
- データ保有者が特定の個人データまたは非個人データへのアクセスを許可したり、共有したりできるようにする
- データ保有者が無償または有償でデータを再利用できるようにする

# 共通欧州データスペース（common European data space）とは

- 当初は9分野でのデータスペース構築
- まずは分野ごとにデータ共有・連携に関する仕組みを標準化・遵守することが求められる



Europeanaの現在地



# Europeanaの現在地

- プラットフォーム、分権体制（cultural/knowledge commons）、文化遺産分野のデータスペースへ
- 収集・公開されるデータの量的規模は拡大
  - 近年は3Dデータに注力
- データスペース化に伴い、他領域との連携やAI活用等の新規プロジェクトが進展中

# Europeanaを理解するためのキーワード

- デジタル主権（digital sovereignty）
  - デジタル空間における国家の自律性や国民・企業の自己決定の確保等を指す用語
  - ⇔ 米中のプラットフォーマー
- プラットフォーム化（platformization）
  - プラットフォームに基づいて多くの社会的活動が行われるようになること
- コモンズ（commons）
  - データ・情報・文化・知識等のリソースを囲い込みを避けて利用できるように管理すること
  - ⇔ 特定の企業/国家による集権的な管理